

..... 編集後記

◆ あけましておめでとうございます。地質ニュース誌は1953年に刊行されて以来、今年で54年目となります。今月号はまず年頭を飾って佃栄吉研究コーディネーターから巻頭言を頂きました。本号は特集「黄河地下水プロジェクト」の原稿6編のほか、国際惑星地球年の紹介1編と新たにスタートするリレーエッセイ「地質調査のパートナー」1編を掲載しました。以下、各報告の概要を紹介いたします。

◆ 石井武政さんは、黄河地下水プロジェクトの概要を紹介しています。これは文部科学省が創設した環境プログラム「人・自然・地球共生プロジェクト」の中で水循環変動予測をミッションとする課題の1サブテーマです。地球温暖化予測に関する研究、高分解能・高精度気候モデルの開発、水資源の安全性に関わるリスクマネージメントシステムの構築など幾つかの研究が同時に進行していますが、地下水を主題としたものは本プロジェクトのみです。

◆ 池田 敦さんほかは、黄河源流域の永久凍土が広範囲にわたって融解している実態を、物理探査とシミュレーションから明らかにしています。広大な寒冷ステップの景観と縮小する永久凍土分布範囲が口絵に掲載されていますので、併せてご覧下さい。

◆ 内田洋平さんほかは、黄河全流域における114地点から地下水および地表水を採取し、酸素・水素安定同位体比を分析しました。その結果、流域の安定同位体比の分布特性を明らかにして、地下水流動に係わる特性について解釈を試みています。

◆ 村岡洋文さんはシミュレーションのための浸透率分布に関する地質モデルを説明するとともに、砂漠化地帯北東移動仮説について記述しています。また、地

質研究者出身の温家宝首相に関するエピソードも紹介しています。口絵と併せてご覧下さい。

◆ 森 康二さんほかは、黄河領域の水資源賦存量の実態把握と将来予測のため、源流から河口に至る領域を対象に三次元地下水循環モデルを構築するとともに、地下水の広域流動シミュレーションを行っています。その結果、上流部、中流部、下流部はそれぞれ独立した集水構造をもつことを明らかにしました。口絵と併せてご覧下さい。

◆ 一ノ瀬俊明さん・大坪國順さんは、黄河流域の地下水需要の空間分布を、地上夜間光の輝度値から把握する試みを行っています。その解析結果を基にして生活用水、工業用水、農業用水に分けて地下水需要を検討しています。

◆ 宮崎光旗さんは、本年から3カ年に亘って実施される国際惑星地球年(IYPE)～社会のための地球科学～を紹介しています。口絵と併せてお読み下さい。この開始にあわせて、地質ニュースは今月号から表紙にIYPEのロゴマークを掲載することにしました。

◆ 森尻理恵さんは、新たにシリーズとしてスタートした「地質調査のパートナー」の趣旨を紹介するとともに、第1回として携帯型帯磁率計について説明しています。機器の説明の他、現場での測定で配慮すべき事項も紹介しています。世界の多くの穀倉地帯では地下水の過剰採取によって、深刻な地下水枯渇問題に直面しています。水不足は、即、世界的な食料不足となります。節水と水の再利用を、どのように効率的に実施できるかが鍵となっています。IYPEでも地下水は重要な課題となっています。今年もご愛読の程、よろしく願い申し上げます。(玉生志郎)

地質ニュース編集委員会

委員長：玉生志郎

副委員長：吉田朋弘

委員：高木哲一・丸山 正・七山 太・
光畑裕司・酒井 彰・高橋裕平

連絡先：地質調査総合センター

地質ニュース編集委員会事務局

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754 Fax. 029-861-3746

E-mail: g-news@m.aist.go.jp

地質ニュース	第629号	2007年	1月号
	定価¥785(本体価格¥748) 千実費		
	2007年1月1日 発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	http://www.jitsugyo-koho.co.jp		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		

© 2007 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ